

これからの学校づくり検討委員会 これまでの経過

 **Murooran**

室蘭が好き。みんなで創る、住み続けたいまち

第1回目の検討委員会では、
現在の学校教育が抱える課題を説明

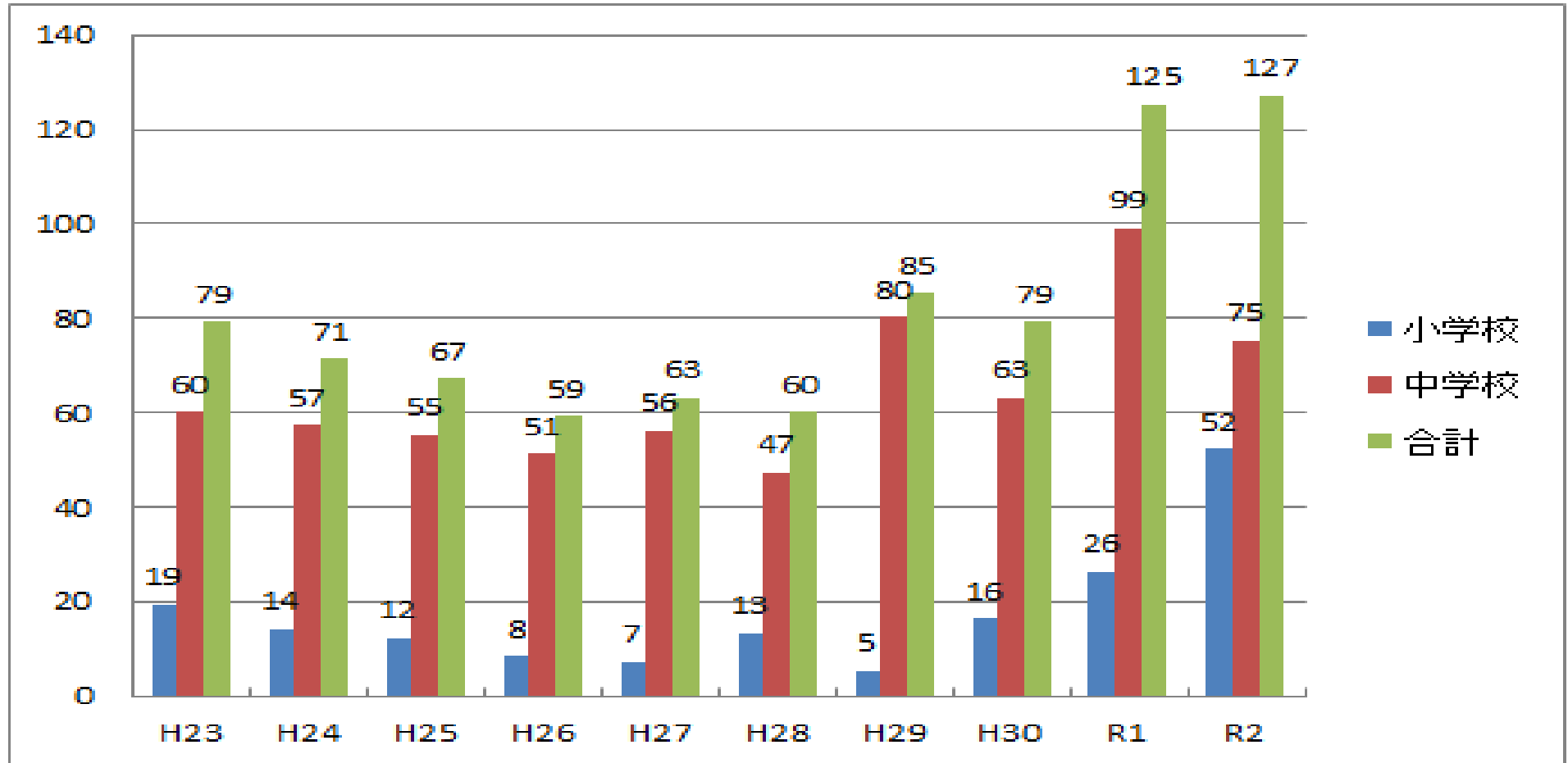
【生徒指導面】

【学力面、情意面】

【今後の児童生徒数の推移】等

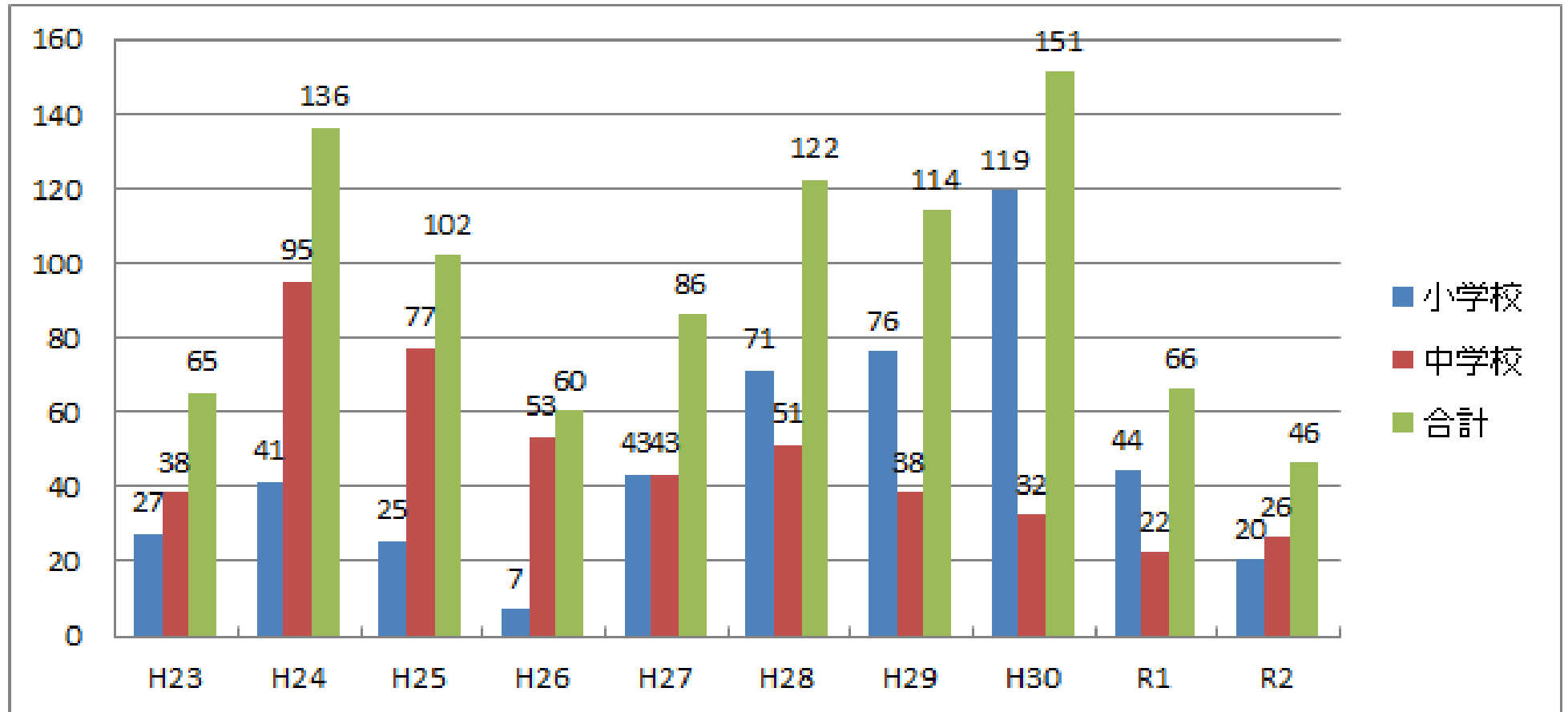
事務局より示した。

室蘭市 不登校の状況



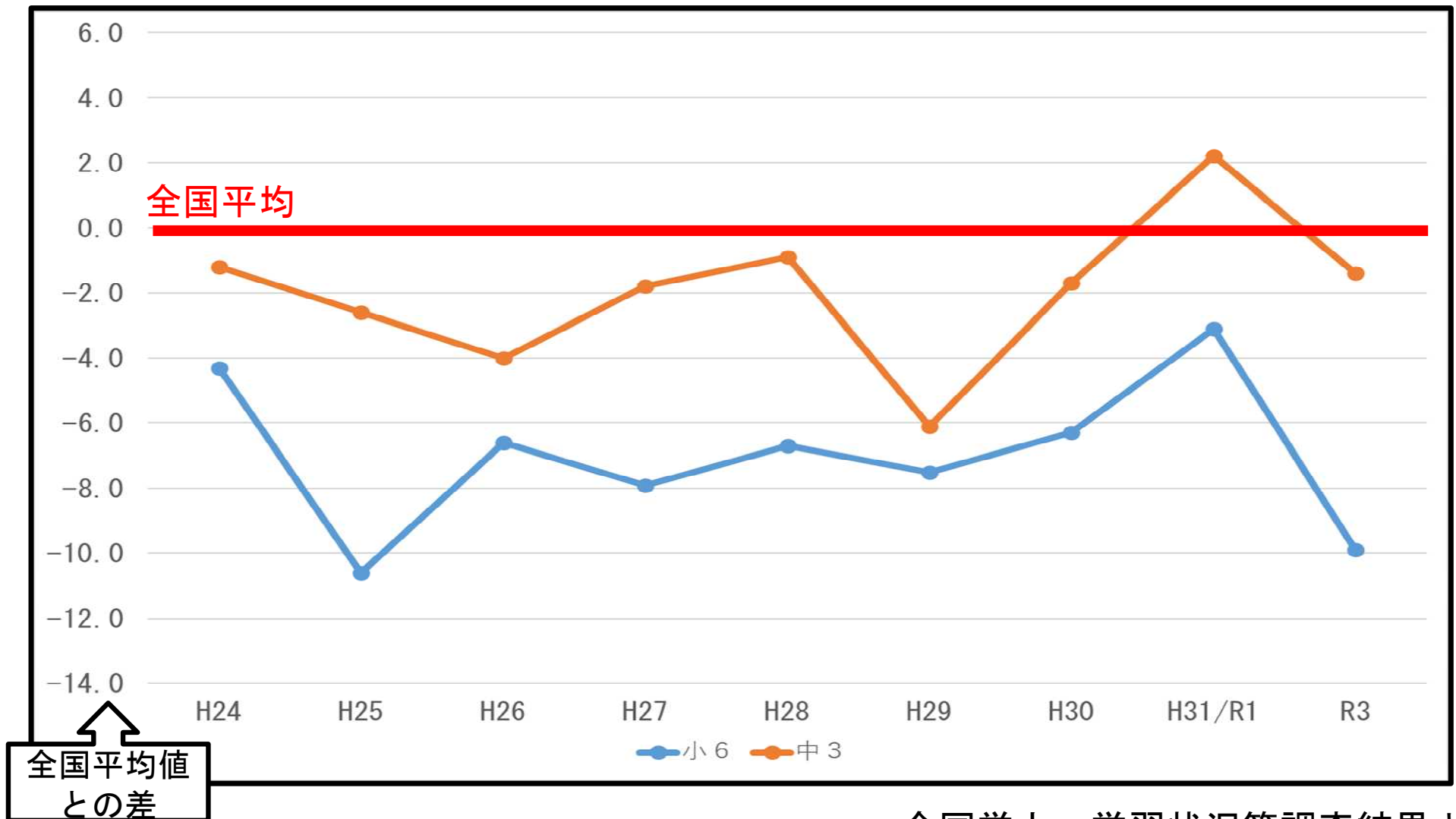
不登校児童生徒数が、全国平均よりも高い状態が続いている。

室蘭市 いじめの状況



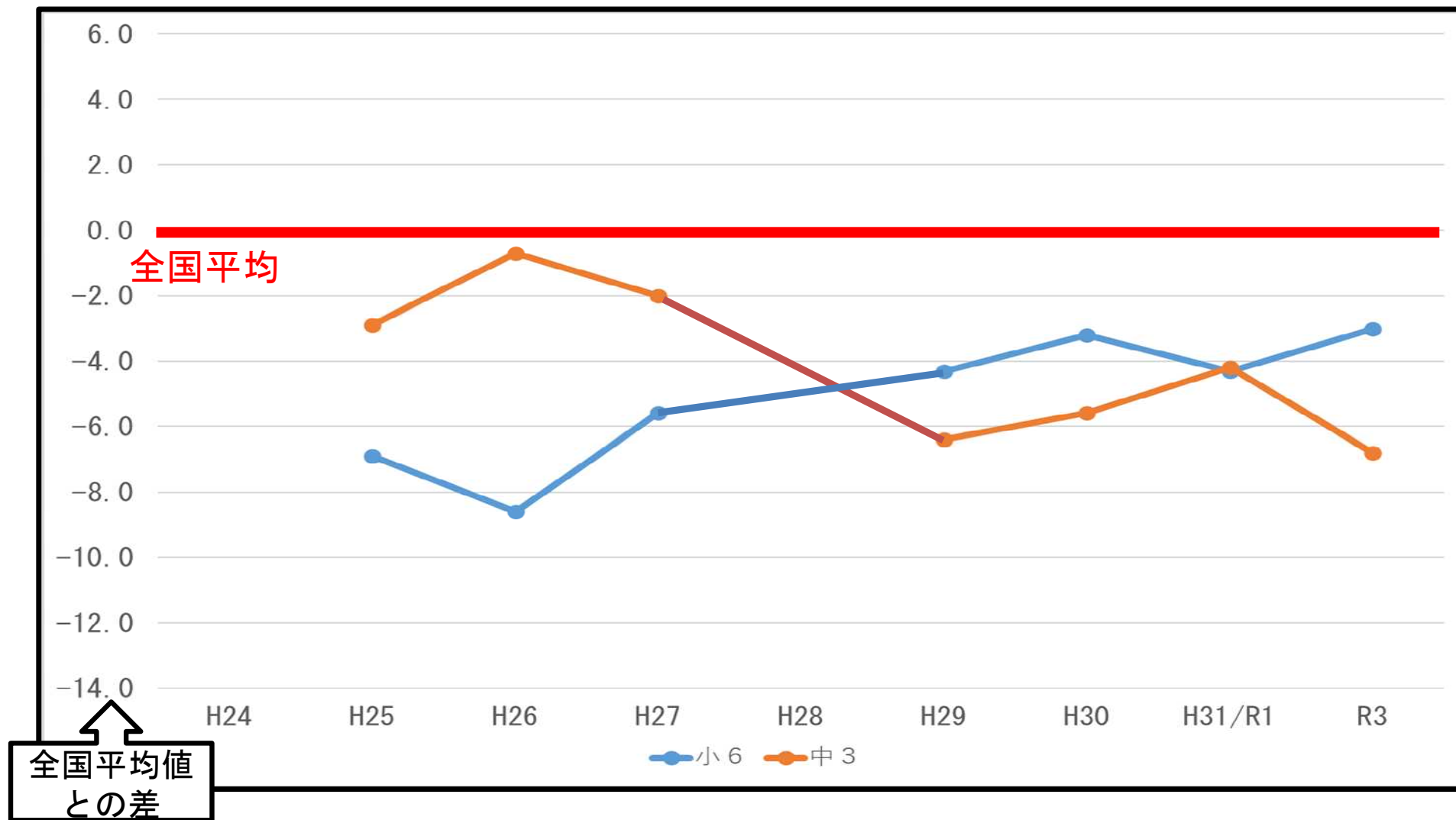
いじめの認知件数は減少傾向にあるが、令和3年度重大事態事案が発生した。

「自分には良いところがある」と回答する子どもが少ない



全国学力・学習状況等調査結果より

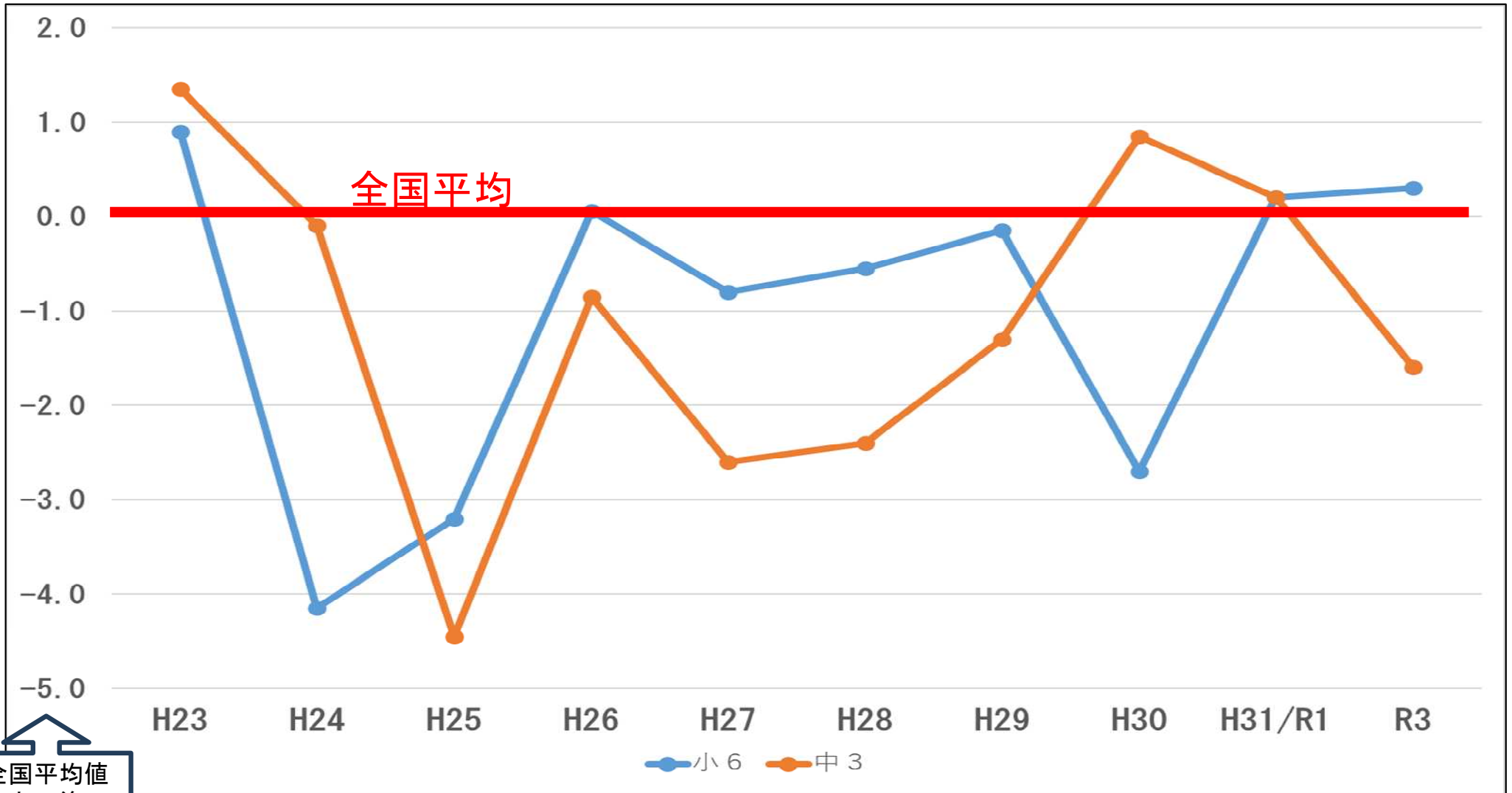
ふるさと室蘭に愛着をもつ子どもが少ない



全国学力・学習状況等調査結果より

室蘭市 学力の状況（国語）

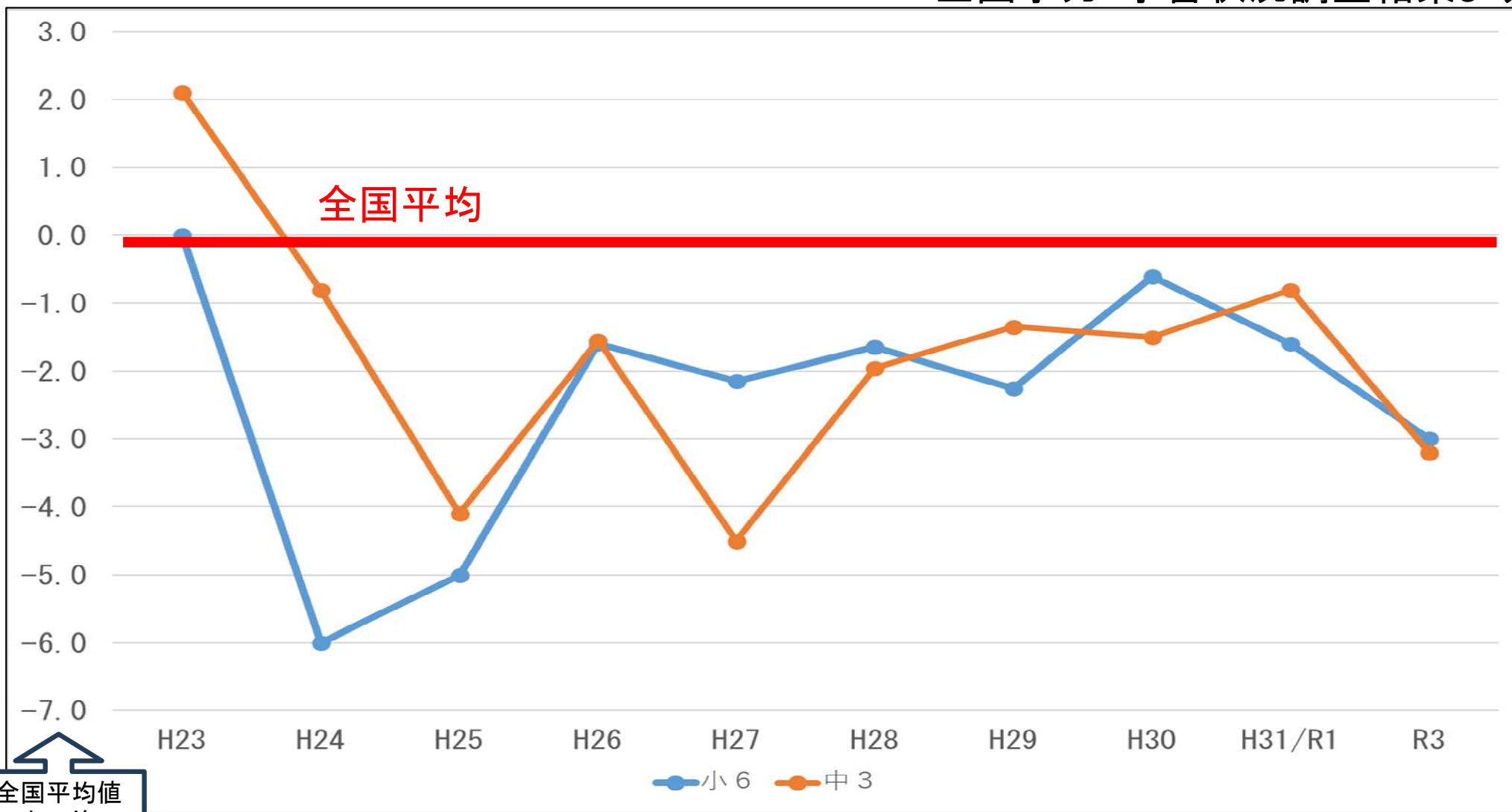
全国学力・学習状況調査結果より



全国平均値
との差

室蘭市 学力の状況（算数・数学）

全国学力・学習状況調査結果より



全国平均

全国平均値との差

● 小6 ● 中3

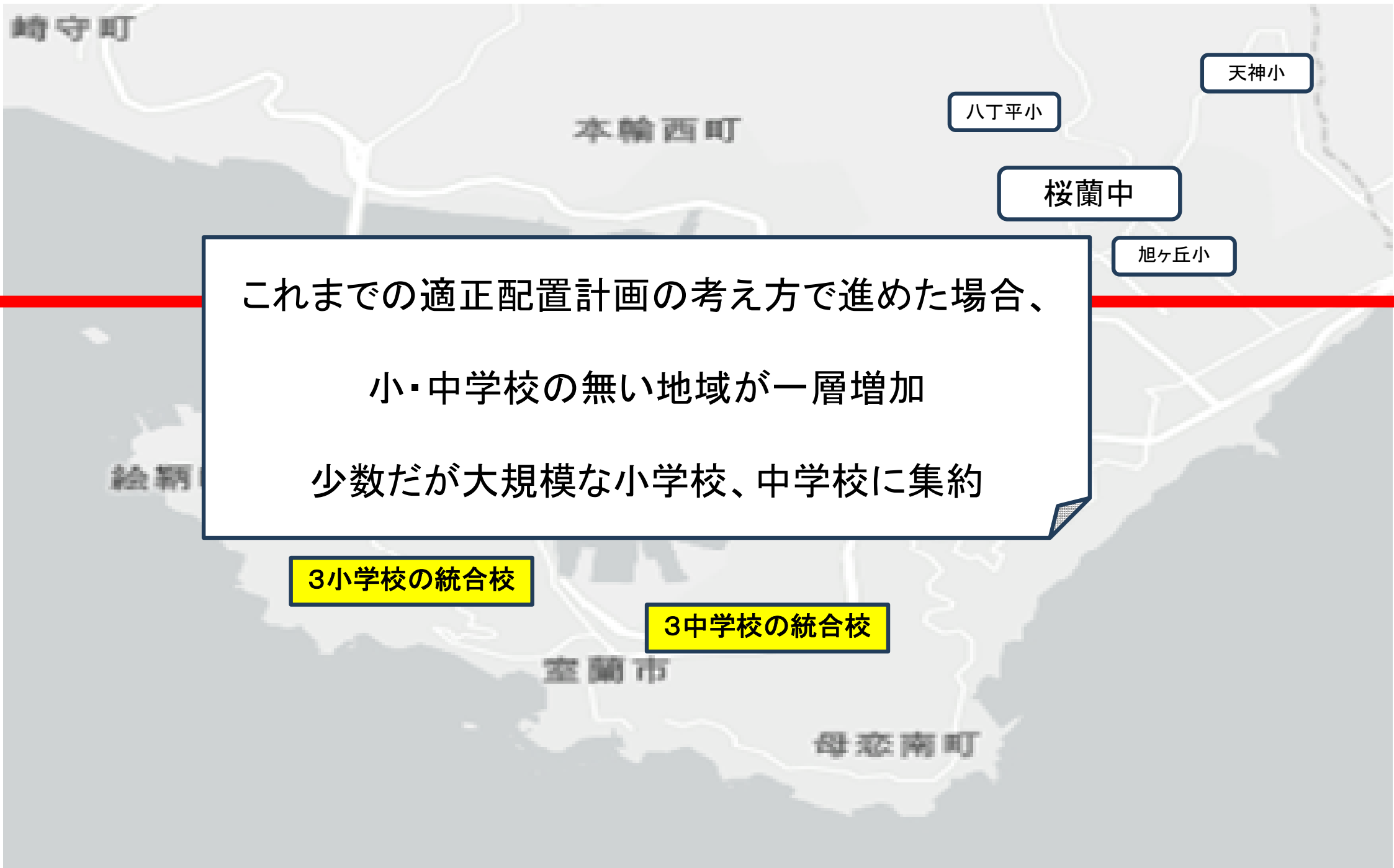
令和3年度小中学校 学級数の状況

小学校ではクラス替えができること、中学校では主要教科に複数の教員配置が可能となるよう、学校の適正規模を小中学校とも、1校当たり12学級から18学級を基本とする。

学校名	各学年の学級数						総学級数
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
みなと小	2	2	3	2	3	2	14
地球岬小	1	1	1	1	1	1	6
海陽小	2	2	2	2	2	3	13
天神小	2	3	2	2	2	2	13
旭ヶ丘小	3	3	3	3	3	3	18
八丁平小	3	3	3	3	3	3	18
蘭北小	2	2	2	2	2	2	12
白蘭小	1	1	1	1	1	1	6

学校名	各学年の学級数			総学級数
	1年生	2年生	3年生	
室蘭西中	3	2	2	7
星蘭中	2	1	1	4
翔陽中	2	2	2	6
東明中	3	2	2	7
桜蘭中	6	5	5	16
港北中	2	2	2	6
本室蘭中	1	1	2	4

小学校では、地球岬小、白蘭小が
中学校では、桜蘭中学校以外の全ての中学校が、適正規模を下回っている。



これまでの適正配置計画の考え方で進めた場合、

小・中学校の無い地域が一層増加

少数だが大規模な小学校、中学校に集約

3小学校の統合校

3中学校の統合校

第2回目 of 検討委員会では、

- 1, 道内の義務教育学校先進校である、「大沼岳陽学校」について、その概要を説明。
- 2, 「少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて」と題して、小中一貫教育等について、胆振教育局教育支援課長より講話をいただいた。

第3回～第5回迄の検討委員会では、以下の4つの課題を解決する方策について、WS形式で協議を重ねた。

【課題1】 自分には良いところがあると回答する子どもが少ない

【課題2】 ふるさと室蘭に愛着を持つ子どもが少ない

【課題3】 不登校児童生徒数が、全国に比べて多い

【課題4】 いじめの発生が、今も続いている

課題①

「自分には良いところがある」と回答する子どもが少ない、を解決する方策として

1. 《家庭》子どもたちに役割を与える、目標設定をする、褒める

2. 《学校》小中の連携、毎日の授業で小中の良さを出す、
教科担任制の充実

3. 《地域》地域の行事に参加、「分団」で上級生が下級生の面倒を見る、
スクール児童館に教員が来て情報共有

4. 《全般》認められる経験を積み重ねる、夢を持つ、義務教育学校
で見られる縦割りの重要性

課題②

「ふるさと室蘭に、愛着を持つ子どもが少ない」を解決する方策として

1. 《家庭》外遊びを通じて地域の良いところを発見、一家団欒の時間を持つ
2. 《学校》小中の先生が、小中の9年間を通して、同じベクトルで子ども達にあたる「むろらん学」の開設
3. 《地域》スクールバスで地域の人が昔話、学校の空き教室に地域の人が入る、地域や企業を見る機会を増やす
4. 《全般》市外へ転出した人が室蘭の良さをアピール

課題③

「不登校児童生徒数が、全国に比べて多い」 を解決する方策として

1. 《家庭》親が相談できる場所を作る、オンライン教育
2. 《学校》もっと小中の先生が交流する、小学校で専門性の高い先生が授業する、担任以外の多くの先生も子どもを見る
3. 《地域》学校や町会々館で保護者の悩み相談、町内で大人と子どもが挨拶を交わせることが重要
4. 《全般》学校に行けない日を企業を訪問する日、不登校の追跡調査、不登校に対する価値観の転換が必要

課題④

「いじめの発生が、今も続いている」という状況を解決する方策として

1. 《家庭》 学校と連携してSNSの使い方に目を配る、メディアのとの接し方を大人が学ぶ
2. 《学校》 登校から下校まで先生が目が行き届いた学校、上級生が下級生を見守る環境、授業で人により考え方が違うことを認め合うことを学ぶ
3. 《地域》 コミュニティ・スクールを土台に学校と連携
4. 《全般》 挨拶をきちんと教えることが大切

第4回と第5回の検討委員会の間に

検討委員の皆様と、5月23日(月)に
「七飯町立大沼岳陽学校」を視察。

WSや視察をもとに、第6回で確認した「これからの学校教育の進め方(手法)」

室蘭市の

「これからの学校教育」

に、求められるものは

【まとめ②】

子ども達のために、**校区の小学校と中学校が、より強く連携した(一体となった)**教育が必要。

【まとめ①】

子ども達のために、**家庭・地域が参画して、学校とより強く連携した(一体となった)**教育が必要。

【室蘭市全体で】

小中9年間の
一体となった教育
(小中一貫教育)

コミュニティ・スクールの
機能発揮、活性化

地域にある学校を支える組織



自分には、良い所があると自信を持って言えて、

室蘭市教育施策の大綱 教育目標

「一人ひとりが夢を持ち、新たな時代に挑戦する力、生きる力を育む」

学校課題を解決するために
小中学校が行うもの

小中一体の教育

室蘭（地域）が好きだ 増加

小中一体の教育

自分には良いところがある 増加

小中一体の教育

いじめは絶対に許されない

小中一体の教育

人の役に立つ人間になりたい 増加

小中一体の教育

不登校児童生徒在籍率の減少

小中一体の教育

学力の一層の向上

小中一体の教育

家庭・地域が参画し、学校と一体となっていくもの

100校区
コミュニティ・スクール

200校区
コミュニティ・スクール

300校区
コミュニティ・スクール

400校区
コミュニティ・スクール

500校区
コミュニティ・スクール

600校区
コミュニティ・スクール

700校区
コミュニティ・スクール

室蘭市学校教育の土台として行うもの



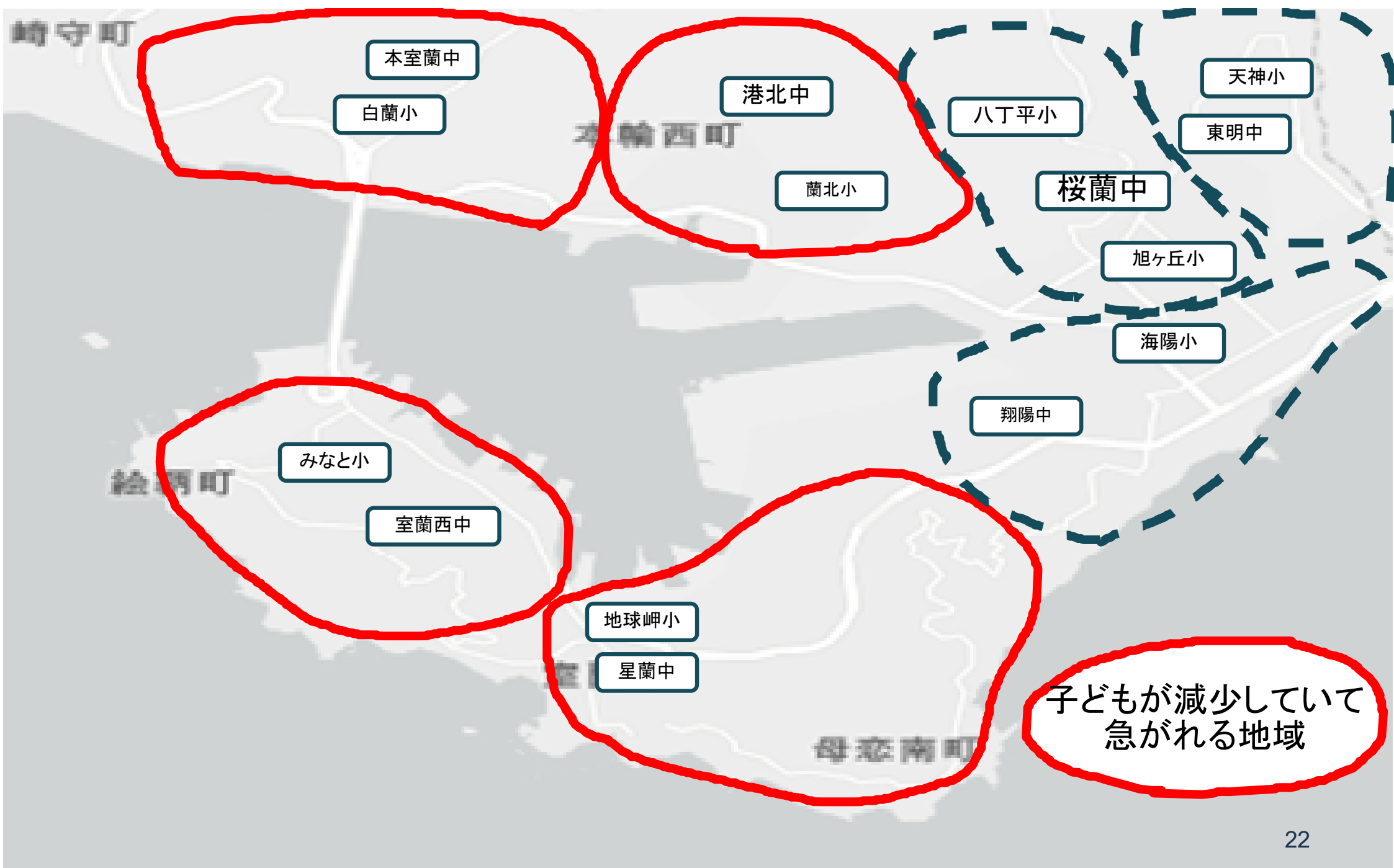
I ふるさと室蘭に、愛着と誇りを持つ教育 II ふるさと室蘭で、共に生きる教育



- ・室蘭が好き
- ・室蘭で頑張りたい、輝きたい
- ・室蘭に住み続けたい

**第6～7回の検討委員会では、以下の
テーマについて協議を重ねた。**

**児童生徒数が減少する地域での
「これからの学校の形」**



年度	白蘭小	学級数
R4年度	153	6
R5年度	137	6
R6年度	131	6
R7年度	120	6
R8年度	116	6
R9年度	111	6
R10年度	94	6
R11年度	98	6
R12年度	94	6
R13年度	92	6
R14年度	90	6
R15年度	91	6
R16年度	93	6

年度	本室蘭中	学級数
R4年度	107	3
R5年度	95	3
R6年度	85	3
R7年度	83	3
R8年度	76	3
R9年度	69	3
R10年度	70	3
R11年度	61	3
R12年度	62	3
R13年度	50	3
R14年度	55	3
R15年度	49	3
R16年度	44	3

年度	港北中	学級数
R4年度	145	6
R5年度	154	6
R6年度	154	6
R7年度	156	6
R8年度	134	5
R9年度	132	5
R10年度	126	4
R11年度	142	5
R12年度	135	5
R13年度	127	5
R14年度	110	4
R15年度	92	3
R16年度	84	3

年度	蘭北小	学級数
R4年度	282	11
R5年度	276	11
R6年度	267	11
R7年度	253	10
R8年度	252	10
R9年度	227	9
R10年度	211	8
R11年度	188	7
R12年度	169	6
R13年度	166	6
R14年度	158	6
R15年度	156	6
R16年度	159	6

年度	みなと小	学級数
R4年度	432	13
R5年度	426	14
R6年度	429	15
R7年度	398	14
R8年度	387	14
R9年度	370	14
R10年度	351	14
R11年度	338	13
R12年度	323	12
R13年度	332	12
R14年度	332	12
R15年度	339	12
R16年度	342	12

年度	室蘭西中	学級数
R4年度	208	6
R5年度	215	7
R6年度	217	7
R7年度	230	7
R8年度	218	6
R9年度	212	6
R10年度	202	6
R11年度	208	7
R12年度	217	7
R13年度	196	6
R14年度	179	6
R15年度	153	6
R16年度	155	6

年度	星蘭中	学級数
R4年度	115	4
R5年度	120	4
R6年度	111	3
R7年度	100	3
R8年度	97	3
R9年度	92	3
R10年度	90	3
R11年度	99	4
R12年度	91	4
R13年度	93	4
R14年度	69	3
R15年度	71	3
R16年度	62	3

年度	地球岬小	学級数
R4年度	190	6
R5年度	196	7
R6年度	183	7
R7年度	183	7
R8年度	168	7
R9年度	162	7
R10年度	155	7
R11年度	134	6
R12年度	135	6
R13年度	129	6
R14年度	130	6
R15年度	127	6
R16年度	128	6

どんな学校の形が望ましいのか、
ご協議下さい。

小中学校・地域・家庭が一体となった教育を進めるのに、
効果的・効率的な学校の形の考え方として

- 1, これまでの適正配置計画の考え方
- 2, 新しい考え方(義務教育学校など)
- 3, 現状維持の考え方
- 4, 一つの考え方に縛られず、地域事情等に合わせた柔軟な考え方
- 5, その他

上記5つの考え方を元に、協議を重ねた。

まとめ 児童生徒数が減少する地域での 「これからの学校の形」

- 1, 白鳥台地区は、本室蘭中学校と白蘭小学校を一つにした新たな「義務教育学校」の検討を進めると良い。
- 2, 蘭中・蘭西地区は、新たな「義務教育学校」の考え方もあるが、新設間もない校舎があることから、これまでの「学校統廃合の考え方」も踏まえ、検討していくのが良い。
- 3, 港北地区は、新たな「義務教育学校」の考え方もあるが、他地区の宅地造成の動向等も想定しつつ、これまでの「学校統廃合の考え方」も踏まえ、検討していくのが良い。

これからの学校づくり検討委員会 報告書（案）

令和4年8月4日

1 検討の動機

平成15年4月の東園小学校と大和小学校の統合による海陽小学校の新設でスタートした学校適正配置計画が、令和3年4月の天沢小学校の地球岬小学校への編入統合により終了したが、その間、室蘭市の児童生徒は約2,400名減少し、適正配置計画で目指した12学級以上を維持できない学校が増え、学校の小規模化が進む一方、児童生徒数が増加傾向の学校があるほか、現在の学校教育が抱える課題は多く、本市では、どのような学校づくりを目指すべきであるのかなど、市教委からの申入れにより学校のあり方について検討した。

2 本市の学校教育を取り巻く課題

本市の学校教育において、次のような課題があることを市教委からの説明により認識した。

- (1) 不登校児童生徒が全国平均より高い状況が続いている。
- (2) いじめの認知件数は減少傾向であるが、いじめの発生が続いている。
- (3) 「自分には良いところがある」と回答する子どもが少ない。
- (4) ふるさと室蘭に愛着をもつ子どもが少ない。
- (5) 学力が全国平均よりも低い傾向がある（特に算数、数学）
- (6) 小学校2校、中学校で6校が適正規模を維持できていない。また、今後、一部の地域を除き、更に厳しい状況になることが予想される。

3 これまでの検討委員会開催内容等

回数等	開催日／場所	検討項目等
第1回	令和3年11月26日（金） ／旭ヶ丘小学校	・市教委説明（これまでの経過、新たな課題等） ・意見交換
第2回	令和4年 3月24日（木） ／桜蘭中学校	・市教委報告（不登校・いじめの状況等、小中一貫校視察） ・北海道教育庁胆振教育局教育支援課長講話 ・意見交換
第3回	令和4年 4月27日（水） ／翔陽中学校	・意見交換（ワークショップ） テーマ1：「自分には良いところがある」と回答する子どもが少ない テーマ2：ふるさと室蘭に愛着を持つ子どもが少ない
第4回	令和4年 5月19日（木） ／海陽小学校	・意見交換（ワークショップ） テーマ3：不登校児童生徒が、全国に比べて多い テーマ4：いじめの発生が、今も続いている
先進校視察	令和4年 5月23日（月） ／七飯町立大沼岳陽学校	・10：30から12：00まで 授業参観及び構内見学、質疑応答等

回数等	開催日／場所	検討項目等
第5回	令和4年 6月 2日(木) ／海陽小学校	・意見交換(ワークショップ) テーマ:第3回、第4回の協議を踏まえた、これからの室蘭市における学校教育の方法の協議・検討 ・検討委員報告(小中一貫校視察)
第6回	令和4年 6月30日(木) ／海陽小学校	・市教委説明(第3回～第5回の協議内容を踏まえた、室蘭市のこれからの学校教育に求められるもの) ・意見交換
第7回	令和4年 7月15日(金) ／海陽小学校	・意見交換(ワークショップ) テーマ:室蘭市のこれからの学校の形
第8回	令和4年 8月 4日(木) ／室蘭市役所	・市教委からの説明(報告書案について) ・意見交換(報告書案の検討)

4 課題の解消に向けたこれからの学校教育の方向性

学校教育の方向性について、多くの意見がある中で次のとおり意見をまとめた。

- (1) 課題解消に向けて次の2つの教育を目指すことが、室蘭市のこれからの学校教育の方向性として必要である。
 - ア 小学校と中学校がより強く連携した教育(一体となった教育)
 - イ 家庭、地域が参画して学校とより強く連携した教育(一体となった教育)
- (2) 上記の方向性を実現するためには、コミュニティ・スクールの設置や機能の活性化等による、室蘭市全体での小中9年間の一体となった教育(小中一体教育)を目指す必要がある。

5 課題の解消に向けたこれからの学校の形

学校教育の方向性を踏まえ、これからの学校の形について、次の5つの考え方を踏まえて検討した。

- (1) これまでの適正配置の考え方(適正規模12～18学級)
- (2) 新しい学校の考え方(義務教育学校など)
- (3) 現状維持の考え方(今の学校数、形態のまま教育を進める)
- (4) 1つの考え方に縛られずに、地域の実情等に合わせた柔軟な考え方(ハイブリッドな考え方)
- (5) その他の考え方(校区の変更、校区を無くすなど)

6 児童生徒が減少する地域

児童生徒が減少する地域については、その他の地域と比べて子どもたちの教育環境の整備を急ぐことが必要と考えられ、地域ごとに次のような考え方がある。

- (1) **白鳥台地区** この地域は、特に児童生徒が減少している地域であり、さらに、他の地域からの距離を考えた場合、これまでの「適正配置」の考え方ではなく、本室蘭中学校と白蘭小学校を1つにした、新たな考え方の「義務教

育学校」の検討を進めると良いと考えられる。

また、室蘭市の小中一体教育を推進するため、他の地域よりも子どもの減少が進むこの地域で、室蘭市のモデル校として、いち早く取組むことも考えられる。

- (2) **蘭中・蘭西地区** この地域も児童生徒が減少しており、地区ごとに小中一体となった、新しい「義務教育学校」の検討をする考え方もあるが、これまでの「学校適正配置」の考え方により、一定期間、適正規模が維持できることや、新設後間もない校舎があることなども踏まえ、更に検討をしていくと良いと考えられる。
- (3) **港北地区** この地域も児童生徒が減少しており、将来的には、新しい「義務教育学校」の形も想定されるが、蘭北小学校で適正規模が維持できる期間があるほか、他の地域の宅地造成の動向等も想定しつつ、更に検討をしていくと良いと考えられる。

7 児童生徒数が維持される地域

当面、児童生徒数が微増、維持される地域である、桜蘭中学校区（旭ヶ丘小、八丁平小）、東明中学校区（天神小）、翔陽中学校区（海陽小）については、中学校区ごとのコミュニティ・スクールを活性化させて、小中一体となった教育、地域と一体となった教育を進めていくと良いと考えられる。

将来的には、これらの地域についても、児童生徒数の推移、校舎の老朽化などを踏まえ、新しい「義務教育学校」、これまでの「学校適正配置」の考え方など、状況に応じたより良い教育環境の検討が必要と考える。

8 その他の考え方

- (1) 不登校、いじめへの対応の考え方として、不登校となった子どもが、室蘭の学校で再スタートするためには、校区にとらわれない学校、選択できる学校があっても良いとの意見があった。
- (2) 現在、特認校は喜門岱小学校のみであり、中学校は居住地校区の学校に進学するしかないため、中学校に馴染めずに不登校となることも想定されることから、中学校の特認校があった方が良いとの意見があった。

9 まとめ

児童生徒が減少する地域については、できるだけ早く、市教委としての方針を取りまとめることが重要と考える。

特に、白鳥台地区は、児童生徒の減少が他の地域よりも顕著であり、さらに、前述した「義務教育学校」の検討を進めること等により、これまでと違った子どもたちのための教育環境の整備に繋がると考えることから、早急に検討を進めるべきと考える。

その他の地域についても、児童生徒数の推移等を見据え、地域の意見を聞きながら、市教委としての考え方をとりまとめ、将来的にモデル校等の状況に対応できる柔軟性をもった方向性を検討すべきと考えられる。

これまで8回に渡り開催してきた「室蘭市これからの学校づくり検討委員会」

においては、室蘭市における学校教育の課題の解決に向けた、これからの学校づくりの方向性について、ワークショップや視察などを通じて、地域、保護者、学校、スポーツ、社会教育、青少年健全育成、学識経験など、様々な分野の委員の意見を取りまとめたものである。

「室蘭市これからの学校づくり検討委員会」の検討に参加した委員名（敬称略）

若佐 誠（室蘭市PTA連合会会長）、池田 陽祐^{※1}（室蘭市PTA連合会（白蘭小））、長利 利恵（室蘭市PTA連合会（地球岬小））、佐野 かおり（室蘭市私立幼稚園PTA連合会会長）、秦 将人（室蘭市立桜蘭中学校校長）、高橋 泰明（室蘭市立東明中学校校長）、大須賀 圭（室蘭市立海陽小学校校長）、鷺津 和司（スクール児童館運営事業者）、齋藤 宏（同左）、森川 卓也（室蘭市町内会連合会副会長）、田村 博文（室蘭市町内会連合会常任理事）、菊地 明（室蘭市青少年健全育成推進協議会会長）、中村 恭子（室蘭市青少年健全育成推進協議会事務局長）、石井 裕子（室蘭市社会教育委員の会委員）、加地 明^{※2}（一般財団法人室蘭市スポーツ協会事務局次長）、山田 一正（室蘭商工会議所専務理事）、真境名 達哉（室蘭工業大学准教授）、今泉 勁介（学校づくり有識者）、伊藤 博明^{※3}（室蘭市教育委員会教育長）

※1）第4回より、金丸 陽子（室蘭市PTA連合会（白蘭小））から池田 陽祐（同左）へ交代

※2）第7回より、大平 朋美（一般財団法人室蘭市スポーツ協会課長）から加地 明（同協会事務局次長）へ交代

※3）第3回より、國枝 信（室蘭市教育委員会教育長）から伊藤 博明（同左）へ交代

これからの学校づくり検討委員会 報告書（案）

令和4年8月4日

1 検討の動機

平成15年4月の東園小学校と大和小学校の統合による海陽小学校の新設でスタートした学校適正配置計画が、令和3年4月の天沢小学校の地球岬小学校への編入統合により終了したが、その間、室蘭市の児童生徒は約2,400名減少し、適正配置計画で目指した12学級以上を維持できない学校が増え、学校の小規模化が進む一方、児童生徒数が増加傾向の学校があるほか、現在の学校教育が抱える課題は多く、本市では、どのような学校づくりを目指すべきであるのかなど、市教委からの申入れにより学校のあり方について検討した。

2 本市の学校教育を取り巻く課題

本市の学校教育において、次のような課題があることを市教委からの説明により認識した。

- (1) 不登校児童生徒が全国平均より高い状況が続いている。
- (2) いじめの認知件数は減少傾向であるが、いじめの発生が続いている。
- (3) 「自分には良いところがある」と回答する子どもが少ない。
- (4) ふるさと室蘭に愛着をもつ子どもが少ない。
- (5) 学力が全国平均よりも低い傾向がある（特に算数、数学）
- (6) 小学校2校、中学校で6校が適正規模を維持できていない。また、今後、一部の地域を除き、更に厳しい状況になることが予想される。

3 これまでの検討委員会開催内容等

回数等	開催日／場所	検討項目等
第1回	令和3年11月26日（金） ／旭ヶ丘小学校	・市教委説明（これまでの経過、新たな課題等） ・意見交換
第2回	令和4年 3月24日（木） ／桜蘭中学校	・市教委報告（不登校・いじめの状況等、小中一貫校視察） ・北海道教育庁胆振教育局教育支援課長講話 ・意見交換
第3回	令和4年 4月27日（水） ／翔陽中学校	・意見交換（ワークショップ） テーマ1：「自分には良いところがある」と回答する子どもが少ない テーマ2：ふるさと室蘭に愛着を持つ子どもが少ない
第4回	令和4年 5月19日（木） ／海陽小学校	・意見交換（ワークショップ） テーマ3：不登校児童生徒が、全国に比べて多い テーマ4：いじめの発生が、今も続いている
先進校視察	令和4年 5月23日（月） ／七飯町立大沼岳陽学校	・10：30から12：00まで 授業参観及び構内見学、質疑応答等

回数等	開催日／場所	検討項目等
第5回	令和4年 6月 2日(木) ／海陽小学校	・意見交換(ワークショップ) テーマ:第3回、第4回の協議を踏まえた、これからの室蘭市における学校教育の方法の協議・検討 ・検討委員報告(小中一貫校視察)
第6回	令和4年 6月30日(木) ／海陽小学校	・市教委説明(第3回～第5回の協議内容を踏まえた、室蘭市のこれからの学校教育に求められるもの) ・意見交換
第7回	令和4年 7月15日(金) ／海陽小学校	・意見交換(ワークショップ) テーマ:室蘭市のこれからの学校の形
第8回	令和4年 8月 4日(木) ／室蘭市役所	・市教委からの説明(報告書案について) ・意見交換(報告書案の検討)

4 課題の解消に向けたこれからの学校教育の方向性

学校教育の方向性について、多くの意見がある中で次のとおり意見をまとめた。

- (1) 課題解消に向けて次の2つの教育を目指すことが、室蘭市のこれからの学校教育の方向性として必要である。
 - ア 小学校と中学校がより強く連携した教育(一体となった教育)
 - イ 家庭、地域が参画して学校とより強く連携した教育(一体となった教育)
- (2) 上記の方向性を実現するためには、コミュニティ・スクールの設置や機能の活性化等による、室蘭市全体での小中9年間の一体となった教育(小中一体教育)を目指す必要がある。

5 課題の解消に向けたこれからの学校の形

学校教育の方向性を踏まえ、これからの学校の形について、次の5つの考え方を踏まえて検討した。

- (1) これまでの適正配置の考え方(適正規模12～18学級)
- (2) 新しい学校の考え方(義務教育学校など)
- (3) 現状維持の考え方(今の学校数、形態のまま教育を進める)
- (4) 1つの考え方に縛られずに、地域の実情等に合わせた柔軟な考え方(ハイブリッドな考え方)
- (5) その他の考え方(校区の変更、校区を無くすなど)

6 児童生徒が減少する地域

児童生徒が減少する地域については、その他の地域と比べて子どもたちの教育環境の整備を急ぐことが必要と考えられ、地域ごとに次のような考え方がある。

- (1) **白鳥台地区** この地域は、特に児童生徒が減少している地域であり、さらに、他の地域からの距離を考えた場合、これまでの「適正配置」の考え方ではなく、本室蘭中学校と白蘭小学校を1つにした、新たな考え方の「義務教

育学校」の検討を進めると良いと考えられる。

また、室蘭市の小中一体教育を推進するため、他の地域よりも子どもの減少が進むこの地域で、室蘭市のモデル校として、いち早く取組むことも考えられる。

- (2) **蘭中・蘭西地区** この地域も児童生徒が減少しており、地区ごとに小中一体となった、新しい「義務教育学校」の検討をする考え方もあるが、これまでの「学校適正配置」の考え方により、一定期間、適正規模が維持できることや、新設後間もない校舎があることなども踏まえ、更に検討をしていくと良いと考えられる。
- (3) **港北地区** この地域も児童生徒が減少しており、将来的には、新しい「義務教育学校」の形も想定されるが、蘭北小学校で適正規模が維持できる期間があるほか、他の地域の宅地造成の動向等も想定しつつ、更に検討をしていくと良いと考えられる。

7 児童生徒数が維持される地域

当面、児童生徒数が微増、維持される地域である、桜蘭中学校区（旭ヶ丘小、八丁平小）、東明中学校区（天神小）、翔陽中学校区（海陽小）については、中学校区ごとのコミュニティ・スクールを活性化させて、小中一体となった教育、地域と一体となった教育を進めていくと良いと考えられる。

将来的には、これらの地域についても、児童生徒数の推移、校舎の老朽化などを踏まえ、新しい「義務教育学校」、これまでの「学校適正配置」の考え方など、状況に応じたより良い教育環境の検討が必要と考える。

8 その他の考え方

- (1) 不登校、いじめへの対応の考え方として、不登校となった子どもが、室蘭の学校で再スタートするためには、校区にとらわれない学校、選択できる学校があっても良いとの意見があった。
- (2) 現在、特認校は喜門岱小学校のみであり、中学校は居住地校区の学校に進学するしかないため、中学校に馴染めずに不登校となることも想定されることから、中学校の特認校があった方が良いとの意見があった。

9 まとめ

児童生徒が減少する地域については、できるだけ早く、市教委としての方針を取りまとめることが重要と考える。

特に、白鳥台地区は、児童生徒の減少が他の地域よりも顕著であり、さらに、前述した「義務教育学校」の検討を進めること等により、これまでと違った子どもたちのための教育環境の整備に繋がると考えることから、早急に検討を進めるべきと考える。

その他の地域についても、児童生徒数の推移等を見据え、地域の意見を聞きながら、市教委としての考え方をとりまとめ、将来的にモデル校等の状況に対応できる柔軟性をもった方向性を検討すべきと考えられる。

これまで8回に渡り開催してきた「室蘭市これからの学校づくり検討委員会」

においては、室蘭市における学校教育の課題の解決に向けた、これからの学校づくりの方向性について、ワークショップや視察などを通じて、地域、保護者、学校、スポーツ、社会教育、青少年健全育成、学識経験など、様々な分野の委員の意見を取りまとめたものである。

「室蘭市これからの学校づくり検討委員会」の検討に参加した委員名（敬称略）

若佐 誠（室蘭市PTA連合会会長）、池田 陽祐^{※1}（室蘭市PTA連合会（白蘭小））、長利 利恵（室蘭市PTA連合会（地球岬小））、佐野 かおり（室蘭市私立幼稚園PTA連合会会長）、秦 将人（室蘭市立桜蘭中学校校長）、高橋 泰明（室蘭市立東明中学校校長）、大須賀 圭（室蘭市立海陽小学校校長）、鷺津 和司（スクール児童館運営事業者）、齋藤 宏（同左）、森川 卓也（室蘭市町内会連合会副会長）、田村 博文（室蘭市町内会連合会常任理事）、菊地 明（室蘭市青少年健全育成推進協議会会長）、中村 恭子（室蘭市青少年健全育成推進協議会事務局長）、石井 裕子（室蘭市社会教育委員の会委員）、加地 明^{※2}（一般財団法人室蘭市スポーツ協会事務局次長）、山田 一正（室蘭商工会議所専務理事）、真境名 達哉（室蘭工業大学准教授）、今泉 勁介（学校づくり有識者）、伊藤 博明^{※3}（室蘭市教育委員会教育長）

※1）第4回より、金丸 陽子（室蘭市PTA連合会（白蘭小））から池田 陽祐（同左）へ交代

※2）第7回より、大平 朋美（一般財団法人室蘭市スポーツ協会課長）から加地 明（同協会事務局次長）へ交代

※3）第3回より、國枝 信（室蘭市教育委員会教育長）から伊藤 博明（同左）へ交代